

一 次の問一～問三に答えなさい。

問一 次の1～8の——線部のカタカナを、それぞれ漢字または漢字と送りがなで答えなさい。

- 1 雪道を歩くのはアブナイ。
- 2 友人の家をホウモンする。
- 3 的の中心を弓でイル。
- 4 ジュンシンな心を持ち続ける。
- 5 雑草をみんなでジョッキョする。
- 6 部屋を十分にアタメル。
- 7 寺のハイカン券を買う。
- 8 合格のロウホウを待つ。

問二 次の1～4の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- 1 揮発性の液体で実験する。
- 2 他者を敬う心を大切にする。
- 3 車窓からの風景を楽しむ。
- 4 幼心にも強く残った思い出。

問三 次の1～4について、それぞれ用い方の誤った漢字を一字ずつぬき出し、正しい漢字を答えなさい。

- 1 都界の景色は、大きな建物ばかりで、自然が少ない。
- 2 勉強の仕型をどう改善すればよいのかを、先生に質問する。
- 3 健康な体のために、栄養のあるものを食べ、適度な運動をする。
- 4 私の特技は、料理を作ることと、人物画を書くことです。

二 次の問一～問三に答えなさい。

問一 次の1～5について、類義語(似た意味の語)を□から選び、それぞれ漢字で答えなさい。

- 1 賛成
- 2 方法
- 3 進歩
- 4 平易
- 5 肉親

かぞく	へんしん	どうい	もくてき	こうじょう
しゅだん	かけつ	どりよく	かんたん	ゆうじん

問二 次の1～4について、例のように、四つの漢字または漢字の一部を、他の漢字または漢字の一部と組み合わせることで別の漢字を作ります。四つ全てに共通して組み合わせることができる漢字または漢字の一部を、それぞれ答えなさい。

例 土 兄 林 申 解答 示

- 1 青 中 真 田
- 2 台 禾 子 次
- 3 工 色 責 内
- 4 玉 古 木 大

問三 次の1～4について、これらの慣用句の□にあてはまるものを次のア～クからそれぞれ選び、記号で答えなさい。また、意味としてふさわしいものを、次の①～⑧からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- 1 彼女の周囲への気配りには□がさがる。
- 2 みんなで□をそろえて反論した。
- 3 弟はケーキには□がない。
- 4 友人の□を引っぱることはしない。

ア 手 イ 頭 ウ 顔 エ 足 オ 目 カ 鼻 キ 耳 ク 口

- ① 同じことを言う。
- ② 敬服する。
- ③ 有名になる。
- ④ めんどくさくみて苦勞する。
- ⑤ 非常に好む。
- ⑥ 同じことを聞きあさる。
- ⑦ 人の仕事をさまたげる。
- ⑧ きらわれ者。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 大みそかの晩に、年越しソバといってそばを食べる習慣が日本にはあります。なぜ大みそかはソバでしめくくるのでしょうか。

ソバは長いから、末長く縁がつながる、A 幸せが長く続きますようにという見方がありますが、これは長さにまつわる呪術やごろ合わせであっても、年越しソバの本当の由来ではありません。

B 本当の理由はどこからきたのでしょうか。

江戸時代、大阪の金銀細工師たちは、一年の仕事を終えると、ほうぼうに飛び散った金粉や銀粉を集めるために、ソバ粉を熱湯で練り、ソバ団子を作って、たたみや床をたたきました。そうするとソバ団子に金粉・銀粉がくっつくのです。次にソバ団子を火で焼くと、ソバは灰になり、金粉・銀粉だけが残ります。金銀細工師の仕事上の知恵といってもいいでしょう。これがいつしか、ソバは金を集める、したがって、大みそかにソバを食べることによって、翌年も一年間、よく金が集まりますようにという俗信仰に変わったのです。

とくに東日本一帯の畑地は生産性が低いので、しかたなくソバを作ります。ソバの供給が豊富になると、この俗信仰は一般的に広まり、江戸ではみんなが大みそかにソバを食べるようになったのです。

現在のソバの形が出来あがったのは、江戸時代も元禄のころです。

元来、ソバは粒食でできない穀物です。これを粒の形で食べようと思ったら、二度熱加工しなければならぬ。そのためにソバを粉にひいて熱湯を加えて練りあげ、ソバがきというものをつくり出します。ソバのいちばん元の形です。現在でも信州から山梨にかけて、ほうとうという団子状、つみれ状のものがありますが、これももとはソバの食べ方のひとつです。X 以前の日本人にとってソバとはソバがきのことだったのです。

やがてソバ粉にツなぎを入れる知恵が生まれます。最初は山芋か卵、のちになると小麦粉、うどん粉をいれます。二ハソバというのはうどん粉二分にソバ粉八分ということです。こうするとソバの腰が強くなって、ずっと伸ばすことができます。そこで中国から伝わったうどん、いわゆるうどんをまねて、切ってみるとちゃんとヒモ状に切れる。そこでソバ切りができたのです。

C、食事の時、クチャクチャ音をたてるのは作法からいえば②タブーです。相手に不快感を与えるからです。ところが、
③ 関東ではソバだけは音をたててもよいことになっています。落語でもソバを食べる音が研究されたりしています。

関西では、ソバ、うどんでも音をたてるのは非礼です。だいたい日本料理は音がたたないように料理してあるもので、音をたててもよいのは香の物だけなのです。

Y だけで許されるソバの音。それはなぜでしょうか。これはおつちよこちよいで、お馬鹿さんで人の良い江戸っ子の習慣からきたのです。江戸っ子には、なんでも早いことはいいことだという価値観があります。一種のダンディズムです。

しかもソバは一般向きの食物ですから屋台が多い。立食なのです。立って上からすり込むと早く食べられる、すると当然音がする。というわけでソバだけは音をたてても良いということになったのです。なかには音のたて方が問題だという妙な美意識(?)が生まれて、一、二、三でスッスススと飲み込んでしまうことが良しとされました。

ぜんぜん噛まないから、胃によくないのですが、ソバ自体はちゃんと練って切っている、消化のいい食物だし、それにルチンとか、米にはないミネラルなども入っている、許されたのでしよう。

D、これは、あくまでも江戸下町の労働者たる④ハツつあん、熊さんの世界のこと、將軍や大名の食べる御前ソバは音をたてないし、女性も音はたてない。そうめんなどはやはり一般的に音はたてません。ソバを食べる音というのは礼法からみれば例外中の例外ということになるのでしょうか。

(樋口清之『日本の風俗 起源を知る楽しみ』を一部改)

問一

A D に入れるのに適切な言葉を、次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二回以上使ってはいけません。

ア では イ しかし ウ さて エ したがって オ あるいは

問二

——線部①「大みそかの晩に、年越しソバといってそばを食べる習慣が日本にはあります。」について、この「習慣」は、大阪の金銀細工師たちの、一年の仕事を終えた時の仕事上の知恵が、どのように変化して出来あがったのですか。五十程度で説明しなさい。

問三

——線部②「タブー」について、同じ意味で用いられている言葉を、本文中からぬき出しなさい。

問四

——線部③「関東ではソバだけは音をたててもよいことになっています。」について、なぜ「関東ではソバだけは音をたててもよいことになってい」るのですか。五十程度で説明しなさい。

問五

——線部④「ハツつあん、熊さん」について、二人はどのような人の例として挙げられていますか。最も適切なものを、次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 以前から江戸で生活している人。

ウ 何を食べる時でも音をたてる人。

オ 江戸下町に住んでいる一般の人。

イ 大阪で金銀細工師をしていた人。

エ 東日本でソバを生産していた人。

問六

X Y に入れるのに適切な言葉を、本文中からそれぞれ二字でぬき出しなさい。

問七

次の文章は、本文を要約したものです。（ア）～（ク）に入れるのに適切な、指定された字数の言葉を、本文中からそれぞれぬき出しなさい。

日本には（ア 四字）に（イ 五字）を食べる習慣があります。これは、大阪の金銀細工師たちの（ウ 六字）から生じた俗習慣が、江戸で広まったことに由来します。ソバの元の形は、（エ 四字）でした。それに様々な工夫が加わっていき、（オ 四字）へと変化していきます。この変化のなかでの工夫の一つの形として、例えば（カ 四字）というものもあります。ソバを食べる時、関東では音をたててもよいことになっています。このことは、音がたたないように料理してある日本料理の作法からいえば（キ 三字）です。御前ソバをはじめ、一般的には音をたてないことを考えると、関東での、音をたててもよいということは、（ク 六字）と言えるでしょう。

受験番号
番氏名
小計

（二枚目に続く）

問三	問二	問一
1 漢字	1 	1
意味	2 	
2 漢字	3 	2
意味	4 	3
3 漢字		4
意味		
4 漢字		
意味		

二

問三	問二	問一
1 誤	1 	1
↓		
正		
2 誤	2 	2
↓		
正		
3 誤	3 	3
↓		
正		
4 誤	4 	4
↓		
正		

一

[illegible]